

アプリを使って英語を読む 単語と絵の組み合わせから意味を考える。

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立のじぎく特別支援学校 本木 信司

<b>本時の目標</b> ・英語の発音を知る。 ・英語の表現に慣れる。 ・英文を、アプリを使って理解する。 ・知らない単語を調べ発音しようとする。	<b>校種・学年</b>	高等部・1年
	<b>教科・領域</b>	外国語(英語)
	<b>アプリ・ソフト</b>	・Google Translator ・OneNote
	<b>備考</b>	

○本時の展開

	○学習活動 (◆指導上の留意点)
<b>導入</b>	○英会話 “What did you have dinner last night?” を示す。 ◆ジェスチャーを入れて話していることが分かるようにする。 ◆理解した生徒、英語で答えた生徒を認める。 ○本時の目的を確認する。
<b>展開</b>	○3ヒントクイズを、翻訳ソフト(カメラ翻訳)を利用して考える。回答の英語を日本語に翻訳する。 ○英単語を画像から判断し、意味と結びつける。 ◆英語を発音する機会を多くとれるように発問する。 ◆副指導者に生徒の特性を理解してもらい、個にあった指導(入力方法、心理的安定)を行う。
<b>まとめ</b>	○” How was today’ s class” と聞き、fun や difficult のような簡単なやり取りののち、日本語で詳細な感想を聞く。 ◆活動の中でできたことを具体的に認める。 ◆英語と日本語をバランスよく利用し、英語を理解できない印象を与えないようにする。

育成できる情報活用能力

◎知らない単語が出てきたときに翻訳ソフトを利用し、自ら発音できることで、苦手意識と不安を解消し楽しみながら授業に参加できるようにする。

育成できる情報活用能力

◎翻訳ソフトで必要な情報を読み取ることができる。読み取った情報から英語を発音したり、単語単独の意味を調べたりすることができる。



OneNote: マウスでポイントすると英語で示された図があらわれる。



翻訳ソフト: 大型ディスプレイに映った文章をソフトで読み取る。

生徒の感想

- ・ソフトで英語の意味がわかって授業が楽しい。
- ・知らない単語の意味がわかることが嬉しい。
- ・このソフトを使って外国の人と話をしてみたい。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・フリック入力、スクリーンキーボード、音声入力などの個にあった選択ができる。
- ・アプリを利用することで苦手意識や不安を低減させることができる。

卒業後も活用でき、自分にとって最適な手段で思いや感じたことを相手に伝えよう

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立氷上特別支援学校 濱田 哲平

本時の目標 ・意思を伝える最適な手段を探す。 ・自分の思いや感じたことを相手に伝える。  参考(生徒の実態) 療育手帳 B2・ASD・場面緘黙症	校種・学年	高等部・2年
	教科・領域	自立活動・日常生活・LHR
	アプリ・ソフト	・読み上げアプリ(iPad)
	備考	

○本時の展開 ※自立活動のため、1年の展開として示す。

	○学習活動(◆指導上の留意点) ○意思を伝える最適な手段を探す。 ◆ICT に拘らず、あらゆる手段を対象生徒とともに試す。 ◆卒業後も継続可能で実用的か想定する。
導入	
展開	自分の思いや感じたことを相手に伝えよう  ○アプリを活用する 場面①:SHR ②各授業 ③実習などの外部の方への挨拶や質問 ④振り返りや感想発表 ◆定型文は、予め保存しておく。 ◆場面に応じて活用するアプリを変更してもよいという柔軟性を伝えておく。 ◆「伝えることができた」「伝わった」という成功体験が積み重ねられるよう、クラス担任→学年の先生→学部の先生→外部の方と伝える対象をスモールステップで広げていく。
まとめ	○ICT を当たり前前に活用し、日常生活を豊かにする。 ◆ICT の活用が特別なことではなく、自分の生活を豊かにするツールだと感じられるよう使用することが当たり前だという環境を整える。


**育成できる情報活用能力**

◎たくさんあるアプリや機能、その他手段から自分に適した方法を選ぶことができる。

**育成できる情報活用能力**

◎いろいろな場面で活用し、自分に最適な使い方を考え実践することができる。

場面①: SHR での活用場面



場面④: 振り返りや感想発表での活用場面

二学期の振り返りを発表します。僕は二学期には、ギターおたくさんひくことができました。中でも、放課後に●●先生と●●先生の2人と弾き語りをするのが、1番楽しかったです。以上で二学期の振り返りの発表を終わります。

現場実習の報告をします。私は、9月26日から、9月30日まで、●●ばん工房●●さんに行ってきました。●●さんのところでは、パンの袋詰めや、ラベルはり、パン生地作りなどをしました。最初は緊張してちゃんと話せるようになるか不安でしたが、皆さんにとっても親切にしてください、最終日には、なんとか話すことができました。来年の実習でもこの経験を生かしたいと思います。以上で現場実習の報告を終わります。

**生徒の感想**

場面③: 実習などの外部の方への挨拶や質問、自分の苦手だと感じていることを相手に伝えることができた。

氷上特別支援学校からきました、高等部2年の、●●●●です。自分は話すのが苦手で、返事ができない時があります。色々ご迷惑おかけするかもしれませんが、よろしくお願いします。

**<情報活用能力の育成とその効果>**

- ・本取組を通して、実習等での外部の方とのコミュニケーションのきっかけを作ることができた。
- ・成功体験の積み上げにより、言葉でのコミュニケーションがとれる場面が増えてきた。
- ・必要に応じて、自分から ICT を活用できるようになってきた。

コンピュータの情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れる。

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立芦屋特別支援学校 石原 慎太郎

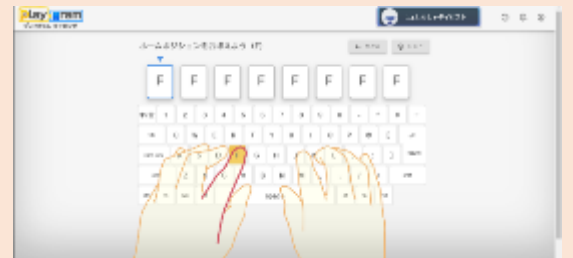
本時の目標 ・ホームポジションを知る。 ・キーボードの扱いに慣れる。 ・両手を使って、タイピングをする。	校種・学年	高等部・2、3年生
	教科・領域	職業(パソコン班)・情報
	アプリ・ソフト	・プレイグラムタイピング(ウェブサイト) ・time timer(アプリ)
	備考	

○本時の展開

○学習活動(◆指導上の留意点)	
導入	○本時流れについて確認する。 ◆授業の内容について、見通しを持たせる。
展開	キーボードのホームポジションを知る。 ○ホームポジションの練習をする。 ◆画面の手のイラストと同じ指でキーボードを打つように促す。 ○パソコン検定の模擬問題に取り組む。 ◆タイマーを設定し、時間が視覚的にわかるようにする。
まとめ	○それぞれ取り組んだ内容や進み具合を発表する。 ◆結果の確認をして、取り組んだ内容や成果を振り返らせる。

育成できる情報活用能力

◎手のイラストとキーボードの絵を元に、自分の手の動きと比較できるようにする。



◎time timer を見て、時間配分を考えることができる。



生徒の様子

- ・ゲーム形式で、学習を進められるので楽しんで取り組む様子が見られた。
- ・イラストを見ることで、手の動きがわかるので、片手で文字を打ち込んでいた生徒が両手で打つことを意識するようになった。
- ・ホームポジションを学ぶことによって、タイピングが早くなって達成感を感じていた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・イラストで確認しながらホームポジションの練習をすることで、キーボードの打つ場所や正しい指の動きなどを自分で確認しながら操作方法を学ぶことができる。
- ・キーボード操作の際、ホームポジションを意識してタイピングすることができるようになった。

学習発表会を通して、親に対して伝えたいメッセージを表現する。

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立阪神特別支援学校 角田 徹

本時の目標 ・高等部最後の学習発表会で保護者に向けて自分たちで伝えたいメッセージを考え、本番で発表するセリフを決める。 ・演技で与えられた役割を果たす。	校種・学年	高等部・3年
	教科・領域	国語・生活単元学習
	アプリ・ソフト	・Teams ・PowerPoint
	備考	

○本時の展開

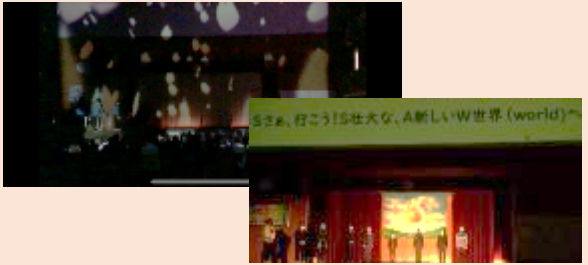
○学習活動（◆指導上の留意点）	
導入	○学習発表会について事前学習を確認する。 ◆舞台上で発表すること、高等部最後の学習発表会であることなどを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分たちで伝えたいメッセージを考えよう。</div>
展開	○自分たちで伝えたいメッセージを考えよう。 ◆Teams に伝えたいメッセージを記入し、チャット形式で友だちとの意見を交流しながら振り替えられるようにする。 ○実際に舞台上で演技練習をしてみよう。 ◆セリフの順番など文脈が整うように、互いに意見を出し合って決めるように促す。 ◆ステージでの練習風景を撮影する。
まとめ	○演技を実際に見て感想を発表しよう。 ◆セリフが聞こえる声で話せているか、観覧者は感動できるものになっているか等、自らの演技について振り返り、次回に向けての課題を見つけるように伝える。

**育成できる情報活用能力**

◎Teams によるコミュニケーションを通して、SNS 等でのコミュニケーション方法を学ぶことができるようにする。また、言語的なコミュニケーション以外にも自分の気持ちを表現する方法を知る。

**育成できる情報活用能力**

◎プレゼンテーション効果を利用して、表現の方法を工夫することができるようにする。



生徒の感想
・自分が伝えたいことを自分で考えて伝えられたことは嬉しかった。 ・友だちの意見になるほどと思うことがあった。 ・保護者の前でメッセージを伝えられたことがよかった。 ・舞台上で緊張した。

**<情報活用能力の育成とその効果>**

- ・グループ内でざっくばらんに伝えたいことを Teams 内で交流させることで、普段は恥ずかしくて簡単には言い出せないことも自分のアイデアとして伝えることができる。
- ・PowerPoint を活用したプロジェクションマッピングを採用したことにより、生徒は自信を持って演技することができる。

視線入力装置を活用し、自分の意思や感情を表出する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立出石特別支援学校 瀧本 直道

本時の目標 ・グループでお互いの意見や気持ちを伝えたり、受け取ったりしながら共同してまとめを完成させることができる。	校種・学年	中学部・2年
	教科・領域	総合的な学習の時間
	アプリ・ソフト	・Tobii Eye Tracker 5
	備考	・Eye MoT3D (射的) を選択で使用できる

○本時の展開

	○学習活動 (◆指導上の留意点)
導入	○本時の学習内容とめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         社会見学で見つけたものを思い出そう                     </div> ◆学習内容やめあてを確認するとともに、生徒に視線の動きを意識させる。
展開	○社会見学の写真を見ながら、見学の内容を思い出す。 ○社会見学に興味をもったものを、一人ずつ選ぶ。 ◆写真を見て振り返られるよう、写真のエピソードを伝えたり、生徒の視線の動きに応じて言葉で表現したりする。
まとめ	○見つけたことや分かったこと、感想をグループでまとめて発表する。 ◆生徒の視線の動きを言語化することで、他の友だちにも伝わるようにする。

育成できる情報活用能力

◎視線の動きを確認する際に、視線を向けた対象について言語化し、生徒とやりとりすることで活動への意欲を高める。

育成できる情報活用能力

◎写真や絵カードを使って意見や感想を友だちと共有することができる。



生徒の様子

- ・活動時間は、10分程度が限界である。成功体験を重ねることで、指示された写真へ視線を動かしたり、好きな写真を選択したりするなど意識的に視線を動かす姿が見られた。
- ・また、視線の動きから、迷っている様子や考えることをやめる様子など様々な姿が見られた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・自立活動の学習を基盤にして取り組むことで、人間関係の形成やコミュニケーション能力の育成を効果的に取り組める。
- ・伝えようとしていることや伝わったことを言語化することで、より友だちや家族とやりとりする意欲を高める。

実験結果をデジタルカメラで撮影し記録することで、情報の整理、振り返りに役立つ

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立神戸聴覚特別支援学校 鈴木 徹

本時の目標	校種・学年	中学部・2年
・凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と、できる像の位置および像の大きさや向きを考える。	教科・領域	理科
	アプリ・ソフト	・写真を再生できるソフト
	備考	

○本時の展開

○学習活動（◆指導上の留意点）	
導入	○凸レンズの性質を確認する。 ○虫眼鏡を使い、光の収集や対象物の拡大だけでなく像を映すことができることを示す。 ◆実験結果をデジタルカメラで撮って記録することを伝える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     スクリーンに映ったり、見えたりする像を撮影し、撮影した写真を使って考えよう                 </div> ○レンズを固定し、蠟燭の位置を変えたときに、スクリーンの位置をどうすればスクリーンに像が映るか、どのように映るのか実験し確認する。 ○凸レンズの焦点距離より近いところに置いた物体の場合について実験し確認する。 ◆スクリーンに映った実像、凸レンズを通して見えた虚像などをデジタルカメラで記録する。
まとめ	○実像や虚像がどのようなときにできたり見えたりするのか、距離と像の大きさとの関係について考察する。 ◆像の大きさや向きを記録写真で確認しながら考え、振りかえる。

育成できる情報活用能力

◎スクリーンに映った像の向きや大きさをデジタルカメラで撮影して記録しておくことにより、結果を確認しながら考えたり、整理したりすることができる。



生徒の感想

- ・写真がうまく撮れてよかった。
- ・（スクリーンに像が）逆さに映った。
- ・おもしろかった。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・実験の結果を写真に撮って記録することで、後から確認したり、考察するときの手助けになったりする。
- ・簡単に振り返りができるので、記録写真から学習を想起することができる。
- ・写真撮影を目的にすることで、実験に集中して取り組むことができる。